

①大学(薬・香薬以外)・短大

② 入試区分

公募推薦Ⅰ期

③ 出題科目

現代の国語・言語文化（古文・漢文を除く）

④ 出題の意図

問題の一は、外山滋比古の文章「点と丸」から出題。俳句に句読点をつけないことの意味について論じた文章。設問では、漢字の書き取り、言葉の意味、慣用表現の空欄補充、対義語の抜き出し、文脈の把握、文章全体の趣旨などを問うている。問題の二は、橋本治『人はなぜ「美しい」がわかるのか』から出題。筆者にとって「美しい」とはどういうことかについて論じた文章。設問では、漢字の書き取り、言葉の意味、昔話の常識的知識、文脈に即した副詞の選択、文脈をふまえた空欄補充、文脈をふまえたキーセンテンスの解釈などを問うている。問題の一・二とも、論説的文章の基本的な読解力をはかる問題となっている。

現代の国語・言語文化
「古文・漢文を除く」

一次の文章を読んで、あとの設問（1～7）に答えよ。

俳句には句読点をつけない。

どんなに勇ましい前衛派でも、つけたことはないのではあるまいか。われわれはつけるのだという句読点派というのが、あつてもいいのに、調べたわけではないから、大きな口はきけないけれども、かつてなかった、としてよからう。

つけないだけではない。なぜついていないのか、考えることもないのである。

俳人はなかなか議論がお好きなように見受けられる。そういう人たちにも、なぜ、俳句に点や丸がついていないのか、などという幼稚な問題は話にならないのだろうか。

もつとも、俳句だけではなく、普通の文章を書くときでも、しっかり、句読法のことを意識している人はまれである。^②みんな我流でやっている。つけたり、つけなかったり。日記をのぞいてみたら、ほとんど句読点がない。ひとに見せるものでなければ、句読点などつける必要はない。他人にあてる文章でも、案内状などでは句読点をつけない方が正式である。どうしてもであろうか。われわれは不思議とも思わない。だいたい、日本人は句読点などというこちたきものをもっていないかった。われわれがいま使っているのは舶来の句読点である。板につかないのは是非もない。いろいろ外来の思想にかぶれてきた俳句だが、さすがに不様な点や丸をぶらさげるところまでは行かなかった。これは案外大きな意味をもっている。もともと、ヨーロッパにおいても、句読点が大昔からあったわけではない。耳のことばが中心の社会では、文章を書いても、点や丸をつけるに及ばない。そういう聴覚の裏付けがなくなると、文章がわかりにくくなる。はつきりさせるために句読法が考えられる。

耳のことばの時代から目のことば、印刷文化の時代へ移って、句読法は表現に不可欠のものと考えられるようになった。印刷が^③フキユウすると、表現が広い読者をもつようになる。中には当然、あまり読むことになっていない人もふくまれる。そういう読者がまごつくことが少ないように句読点をつけられる。

ということは、句読点には相手への不信がひそんでいる。どこで区切るか、はつきりさせておかないとわからなくなるおそれがある。親切で句読点をつける。親切はしばしば^④失礼になる。失礼になってはいけない相手への手紙などでは、いまでも句読点をつけないのが普通である。毛筆の書簡に丸などついてはつや消しになろう。とにかく、点も丸もあまり^{かっしょう}恰好のいいものではない。なければなしで済ませたい。まったくなし、丸腰の俳句、短歌はきわめてスマートだということになる。

一般の文章は耳のことばから縁が遠くなるにつれて、句読点をしつかりつけるようになってきた。印刷されたものもつともきちんとした句読法を^⑤ジッセンしているのは理の当然である。俳句は現在、印刷文芸である。とすれば、句読点が必要とするはずだ。しかるに、つけていない。それにはそれなりのわけがあるに違いない。ひとつは、まだまだ、俳句が充分、聴覚的だということが、句読点の助けをかりなくてもすんでいる事情だと考えられる。明治以降の俳句が目のことばによりすぎているというのがわが持論だが、他方ではなお、充分に耳のことば的であると認めてよい。

点と丸のはたらきの^⑥シュたるものは、表現に区切りをつけることである。ところが、俳句には五七五という基本的区切りが枠として与えられている。「古池や、蛙^{かきす}飛びこむ、水の音。」などとすれば、点も丸も^⑦足である。俳句には句読点が内在している。目に見えない句読点がついているとしてもよい。〃切れ字〃もそういう目に見えない句読点として重要である。それから、相手を立てる気持がある。受け手が野暮で、意味をとり違えるおそれがあると思えば、体裁などかまっていられるか、ということになる。丸でも点でもつけなくてはならない。そこまで相手を見下ろすことをしないのが短詩型文学の礼節である。^⑧通人ならば、よいいなものをつけなくても、おわかりいただけるでしょう。それで丸腰で^{すわ}坐る。

散文で句読点をとると、意味がはっきりしなくなる。あいまいでは困る。それが散文の原理である。ところが、俳句では、清水に魚住まず、あつけらかとわかりすぎてしまえば、標語にもならない。適度にあいまいであってほしい。句読法の出る⑨はない。そして、最後に、しかし、最小ではない理由に、保守主義がある。昔からつかなかったのだから、いまさらつけてはおかしい。有季定型を裏から支えているのが、没句読点である。さすがに俳句は伝統芸術だけのことはある。前衛すらこれに手をつけることをしなかった聖域だとすれば、その意味は決して小さくない。だからといって、俳句に点も丸もついていないことを忘れていいことにはならない。

句読点なしで行くには、あいまいさを尊重しながらも、同時に、わかりやすさも必要である。あまり勝手なことをされては、読む方が迷惑する。

（外山滋比古「点と丸」による）

設問

1 傍線部①について、「考えることもないのである」とあるが、筆者はその理由をどう考えているか。もつとも適切な説明を次のなかから選んで記号で答えよ。

ア 俳句は句読点がついていない「伝統芸術」だから、いまさら考える必要もないから。

イ 俳句は平等の発想によって成立した「伝統芸術」だから、つける発想自体がないから。

ウ 俳句は目のことばという側面があり、つけなくても十分に理解出来るから。

エ 俳句は耳のことばという側面があり、つけなくても十分に理解出来るから。

2 傍線部②について、その言葉の意味はどうか。説明せよ。

3 空欄⑦⑨について、それを埋めるのにもつとも適切な漢字一字は何か。その漢字一字をそれぞれ記せ。

4 傍線部③⑤⑥のカタカナを漢字に直せ。

5 傍線部④について、どうして「失礼になる」と筆者は述べるのか。文中の言葉を用いて十五字以内で答えよ。

6 傍線部⑧について、その対極的な意味を表す言葉は何か。文中より抜き出せ。

7 筆者は俳句における句読点について、どのように考えているか。この文章全体の趣旨を踏まえて、自分の言葉で説明せよ。

二次の文章を読んで、あとの設問（1～6）に答えよ。

自分が一番最初に「美しい」を実感したのがいつで、その対象がなんであったかを、私は明瞭に覚えています。明瞭に覚えていることだけは事実で、別にそれは「いつまでも抱きしめていたい過去の記憶」ではありません。「それを出せ」はいったって簡単なことで、「自分の人生という物語を、自分はあの時に始めたんだな」は、いたって①した事実でした。

私が自分自身で「美しい」を実感したのは、小学校に入る年の春でした。まだ幼稚園に通っていた三月の、雛祭りの終わった頃だったと思います。

朝起きて、幼稚園に出掛ける前の時間、私は下駄を履いて庭を歩いていました。たいして広くもない庭に霜柱が立って、真つ黒な土の上を踏んで歩くと下駄の跡がついて、それがおもしろいので、一人で歩き回っていました。今から半世紀も前のことです。

庭のはずれには何本かの竹が植えてあって、後一、二ヵ月もすれば根元から細い竹の子が生えてきます。「まだ竹の子って生えないのかな」と思って、私はその根元を覗きました。すると、そこに見たことがないものがありました。緑色の——まるで自分の指先のような形をした小さなものが、黒い土の中から顔を出しているのです。私はびっくりしました。「なんだろう?」と思ってドキドキしました。私が驚いたのは、それがあまりにも美しかったからです。

その光景はあまりにもスリリングで、私は初め、目のサツカカかと思いました。黒い土の中からほんのちよつとだけ顔を覗かせているものは、夢か奇蹟のように美しく、放っておけば「嘘だよ」と言って消えてしまいそうに思えたからです。私は「なんだろう?」と思って座り込み、黒く冷たく潤っている地面の中から顔を覗かせている、瑞々しい青緑色のものをじっと見ていました。

それは「水仙の芽」でした。でも私にはその正体が分かりません。もちろん、その以前から私は花が好きでした。

「花『きれいなもの』と認識して、じっと見ていました。でも、その時地中から現れた水仙の芽の見える美しさは、私の知る花の美しさとは全然質の違うものでした。なんだか分からないのに、見ているとドキドキして、目が離せなくなるのです。幼稚園から帰って来ても、一人で庭に行ってそれを見ていました。「もしかしたら消えてなくなっちゃうのかもしれない」と思っていたそのものは、消えてなくならずに、まだそこにケンザイ^③でした。ますますその形を明確にして、私の前で光り輝いているようでした。竹取りの翁^{おきな}が^④の入っている竹を見つけた時は、おそらくそんな感じだったのではないかと思いました。土の中から出ている「光り輝く緑の指のようなもの」を見ることが、それ以来、私の朝と昼と、それから暇さえあればいつでも、ニツカ^⑤のようになってしまいました。

私はそれを「美しい」と思い、^⑥どういうわけか唐突に、「これが自分だったらいいな」と思いました。どうしても分かりません。それを「きれい」と思うことと、「これが自分だったらいいな」と思うことが、いとも簡単に一つになってしまうのです。

もうすぐ六歳になろうとする五歳の私は、自分のことをそんなにも美しいものだとは思っていません。だから、「これは自分だ」と思うことにためらいがあります。だから、「これが自分だったらいい、自分がこんなにも美しいものであったらいい」と思うのです。その水仙の芽は、五歳の私にとって、「希望」という言葉の持つ輝きと同じ質の美しさを持つていました。もちろん、五歳の私は「希望」などという言葉はまだ知ってはいませんが、その言葉を知っていたなら、「希望というのは緑色に輝くもので、地面の中から生えて来るものだ」と解釈してしまっていたでしょう。なんでそんなことを感じていたのかと言えば、その頃の私が「自分はもうすぐ小学生になる」ということを強く意識していたからでしょう。その頃、^⑦家が改築して新しくなりました。その他にもいろいろ環境の変化がありました。

「自分は小学生になる」は、「自分も小学生になる」で、それは更には「自分は大人になる」でもありました。そのことが輝かしく思えたから、「小学生になるんだ!!」と思っていたのです。でも、ことはそう単純じゃありません。未来の希望に燃えているだけの子供だったら、庭の隅に芽を出した水仙の緑をじっと見てなんかいいでしょうし、「これが

自分だったらいいな」などという複雑なことも考えないでしょう。それをするのは、どこかに「⑧」があるのです。それを「美しい」と実感させるような人間関係の幸福があつて、と同時に、その美しさを「自分の支え」にしなければならぬような「⑧」も、その頃の私にはあつたということです。

(橋本治『人はなぜ「美しい」がわかるのか』による)

設問

1 空欄①に入る適切な言葉は次のどれか。一つ選んで記号で答えよ。

ア じつくり イ うつつら ウ こっそり エ ぼんやり オ あっさり

2 傍線部②③⑤のカタカナを漢字に直せ。

3 空欄④に入る大変有名な日本の昔話のキャラクターの名前を答えよ。

4 傍線部⑥「唐突」とはどのような意味か。十字以上二十字以内で説明せよ。

5 傍線部⑦「自分も小学生になる」とあるが、これは直前の「自分は小学生になる」とどのような点が異なるのか。「も」と「は」のちがいに留意しながら、この文章全体の文脈を踏まえて説明せよ。

6 空欄⑧には共通した言葉が入る。「美しさ」に気がつくことを「自分の支え」にしなければならないような筆者の心情を考えてその言葉を答えよ。

一
1 エ
2 自分勝手な流儀。自己流のこと。
3 ⑦ 蛇 ⑨ 幕
4 ③ 普及 ⑤ 実践 ⑥ 主
5 相手への不信があるから。
6 野暮
7 筆者は俳句の句読点について、「耳のことば」という特徴を踏まえて考えている。その五七五という基本的区切りを重要視する。つまり、句読点そのものが「内在している」という考えである。別な言葉に置き換えるのなら、筆者は「目に見えない句読点がついている」とも指摘し、そのことが従来から俳句に句読点が付かないことの要因だとする。しかし、俳句における句読点の意味を考えないことではない。とくに現在は「印刷文芸」に俳句がなっている以上、そのことを踏まえたうえで、聴覚的なものを多く持っている「丸腰」の文芸と考えることも大切であり、そこに俳句の句読点の意味を見出している。

二
1 オ
2 ② 錯覚 ③ 健在 ⑤ 日課
3 かぐや姫
4 前ぶれもなく突然に何かが始まること。
5 自分も大人になるというためらいの気持ちが表現されている点が異なる。
6 不安